

令和4年度 建築士の日記念事業

第41回

石川建築賞入賞作品

令和3年度第41回石川建築賞に対し応募いただいた21作品から
審査の結果、入賞した作品と審査員選評を紹介します。

入賞作品に対する表彰式を令和4年度 建築士の日記念事業
として7月18日（月祝）に行いました。

日時：令和4年7月18日（月祝）16時～（受付 15時30分～）

場所：ANAホリデイ・イン金沢スカイ 18階 トップオブカナザワ

■ 入賞作品一覧

優秀賞	(一般建築)	清水建設 北陸支店 新社屋
入選	(一般建築)	クロスゲート金沢
入選	(一般建築)	国立 工芸館
入選	(一般建築)	金沢市第二本庁舎
入選	(住宅建築)	津幡の家
入選	(一般建築)	Ten riverside
入選	(一般建築)	株式会社ソディック加賀事業所マルチファクトリー
入選	(一般建築)	石川県直江庁舎
奨励賞	(住宅建築)	二世帯の大屋根の家

主催：一般社団法人 石川県建築士会

後援：石川県

一般社団法人 石川県建築士事務所協会

一般社団法人 石川県建設業協会

第41回 石川建築賞 入賞作品集
 ☆ 優秀賞
 【一般建築】

作品名（建築物名称）	清水建設 北陸支店 新社屋	所在地	金沢市
建築主	清水建設株式会社北陸支店		
設計者	清水建設株式会社 北陸支店一級建築士事務所		
施工者	清水建設株式会社北陸支店		



1919年からこの地に在る清水建設北陸支店の建て替え計画である。社の歴史と街並みを尊重した佇まいは、100年余りの記憶を継承しつつ共創を促進する新たなワークプレイスとして国内最高クラスの環境性能を実現することを目指した。

RC壁柱とフラットスラブによる吹き抜けの無柱空間はフリーアドレスオフィスに相応しく、ダイナミックな開放的執務スペースを実現している。また、ZEB&水素エネルギーシステムの実装や県産材を活用する木質ハイブリット材の開発という自らを建築文化の発展のための実験的な場としても活用している。

英知を集結し、幾度ものシミュレーションにより裏付けられた空間と構造、環境が一体となったデザインは、オフィス建築の模範となる作品である。この隙のない仕上がりに対して若き設計担当者は、「最後の決断は私の感覚です」と答え、人の感覚に寄り添った建築であることが確認でき、改めて完成度の極めて高い建築であると評価された。

（選評：道地 慶子）

☆ 入 選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	クロスゲート金沢	所在地	金沢市
建築主	オリックス株式会社		
設計者	株式会社 竹中工務店 名古屋支店		
施工者	株式会社 竹中工務店 名古屋支店		



2017年に金沢市が希望した国際的に評価の高いホテルの誘致が決まって以来、市民の高い関心が集まっていた中で高い完成度によって新しい駅西の場を提供した作品である。

ホテルの計画では事業グループによって仕様が指定されることもあるが、このプロジェクトの場合は天井高や廊下幅、部屋数などの寸法や規模が提示されたのみで、デザインの高い品質は設計者の提案によるところが大きい。

館内に点在する100を超える伝統工芸の作品の配置や同時期に整備された駅西の歩行空間との一体計画など応募作品の中でおそらく最も複雑なプログラムを高い次元で解き切った設計・施工・運営力は見事である。

ホテル以外の機能は商業・住宅があり、ホテルを利用する人や買い物や飲食をする人がくつろげるような空間が開放エリア（みらいの丘）として提案されている。

そこでは現地視察の際に高校生の談笑する姿が見られ、市民の新しい場として根付き始めていることを実感できた。

（選評：西本雅人）

☆ 入 選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	国立工芸館	所在地	金沢市
建築主	石川県		
設計者	株式会社山岸建築設計事務所		
施工者	【建築】 真柄・高田・共栄特定建設工事共同企業体 【金沢偕行社】 岡・本田特定建設工事共同企業体 【第九師団司令部庁舎】 長坂・川元特定建設工事共同企業体		



国立工芸館の金沢移転の受け皿として、第九師団司令部庁舎と金沢偕行社を移築・復元・増築した建物である。

一見すると登録文化財の保存であるが、こうした印象を与えることに成功したからこそ今回の入選となった。

例えば前者の場合、移築遺構は中央部のみであり、展示室となった両翼部はRC造による復元である。両者が違和感なく融合しているのは、エキスパンションジョイントで分離せず、構造的に一体化されているためである。言わば古材を用いた木質系平面混構造が、時刻歴応答解析を援用しつつ限界耐力計算によって実現されており、技術的取り組みとしても意義深い。

いずれにせよ複雑なプロジェクトである。設計上の裁量の余地は、2棟の間のアプローチ空間くらいであったと思われるが、この部分のさらなる充実が図られていればこの建物の魅力はより高まったものと思われる。

（選評：佐藤考一）

☆ 入 選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	金沢市第二本庁舎	所在地	金沢市
建築主	金沢市		
設計者	株式会社 五井建築研究所		
施工者	真柄・兼六・豊蔵・城東特定建設工事共同企業体		



金沢市庁舎の拡張計画として金沢市庁舎や金沢 21 世紀美術館に隣接する歴史・文化ゾーンに建設された建築である。

近隣にはこまちなみ保存区域をはじめ住宅スケールの建築が多く建ち並ぶ地域において、全体的に高さを抑えながら庇によるボリュームに分割、セットバックされた配置計画など周辺環境に馴染むためのデザインが随所に見られる。

また、大きくとられた前面緑地と開放的なエントランスホールは市民を迎え入れる佇まいを持ち、開かれた市庁舎をイメージさせる点も高評価である。

インテリアでも格子天井や壁板、カウンターなどに地場産材の杉板を使用し、木の文化都市金沢の新しい顔としての役割も担っている。

平面計画において執務空間を中央に配置し、動線を口の字に計画している点にもチャレンジを感じ取ることができる。

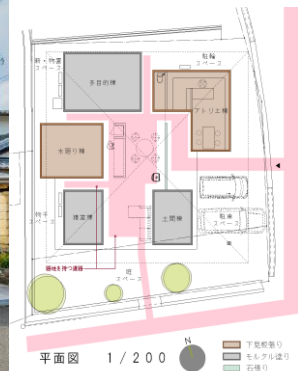
敷地の読み取り、周囲との関係性、歴史・文化の継承、市庁舎のあり方、環境的な配慮、安全対策など多種多様な要求に対して高いレベルで融合が図られている建築であると評価する。

（選評：宮下智裕）

☆ 入選

【住宅建築】

作品名（建築物名称）	津幡の家	所在地	津幡町
建築主	中宮紘也		
設計者	中宮紘也建築事務所		
施工者	株式会社 橋本工建		



旧街区が残る閑静な住宅街に建つ住居兼設計事務所併設の「職住一体」住宅である。コロナ禍で在宅ワークも普及した現在、公としての仕事の場・私としての家族の場を調和させることが今後の住宅設計の課題となりつつある昨今、「フラット化」と言うべき実験的な空間構成手法により、新しい職と住の共存環境の可能性を拓いた意欲的な作品である。居室をひとつひとつ独立させ、その隙間が創り出す空間を屋外の街路と接続する「路地」として内部に引き入れ、下見板張りや石張りなど外部仕上げをそのまま内装仕上げとするのは斬新である。

宝形の大屋根により室内として一体感は担保されるが、屋外への伸びやかな視線の抜け、吹き抜ける風、日差しの変化が心地よい。

また屋根の架構は伝統的な身舎-庇の構成を参照したとの話だが、身舎を「堂」・庇を「室」と反転して扱うのは過去例を見ない。仕口も車知で継ぐなど、大工仕事を大切にした細部の美しさも高く評価された。

（選評：熊澤栄二）

☆ 入 選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	Ten riverside	所在地	金沢市
建築主	加賀建設株式会社		
設計者	金沢工業大学 竹内申一研究室		
施工者	加賀建設株式会社		



Ten riverside は古い倉庫を「金棒茶(金石で古くから飲まれている棒茶)」を提供・販売するカフェ及び焙煎所としてリノベーションした建築である。施主は金石を拠点とする建設会社であり、これまでも金石地区に継続的に賑わいの拠点づくりを行って来ている。

本建築も同様の文脈で、地域の担い手が自ら金石地区の魅力を高めるために、主体的かつ持続的な小さなまちづくりを推進している意義はとても大きいと言える。また、倉庫の3期に渡る増改築の歴史を丁寧に紐解き、それをそれぞれの空間の質の変化につなげることで、時間という概念を設計デザインに取り込んでいる点が高く評価できる。

もっとも古い第1期の空間はアプローチ庭園としてその廃墟的な雰囲気を活かした外部的で印象深い空間となっている。

大学生という若い世代が地域資源の調査、再生に関わることは非常に重要であり、関係人口の増加という観点でも意味深いものである。一方で本建築における学生の役割がより明確に示されると良かったと感じた。

(選評：宮下智裕)

☆ 入選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	株式会社ソディック 加賀事業所 マルチファクトリー	所在地	加賀市
建築主	株式会社ソディック		
設計者	清水建設株式会社 北陸支店一級建築士事務所		
施工者	清水建設株式会社 北陸支店		



工作機械を生産する企業の敷地内に増築された工場である。工場は生産ラインの効率化や企業規約によりデザインの余地は少なく、建築賞での評価が難しい施設種ではある。

にも関わらずこの作品の評価が高かったのは生産システムを設計者が提案して工場の平面計画を飛躍させた点にある。

従来の工場では精密機械の試運転に必要な 200~600L という大量の油を手作業で運搬・注入・廃棄を行っていた。対して本作品では架空配管によって油を循環させ、移動式のポンプユニットを開発することで点在した複数箇所でのユースポイントで油の注出入を実現した。特許となったこのシステムにより、工場内からは油特有の匂いは消え、平面計画の自由度が増えた。

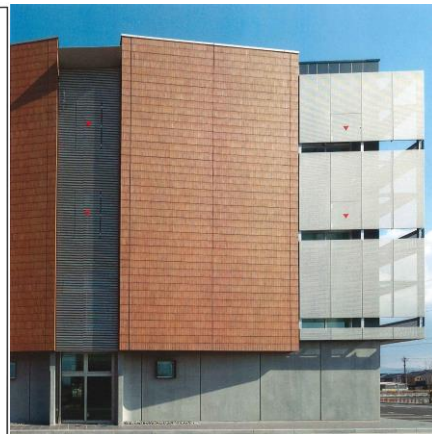
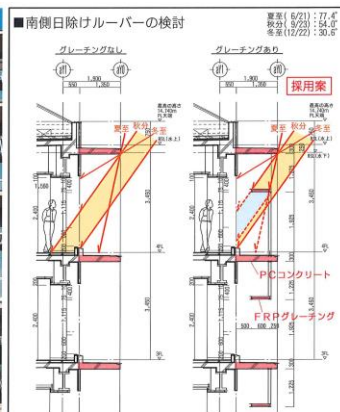
工場の外観は製品デザインと関連性のある色彩でまとめられ、隅部や水切りのディテールは金属サンドイッチパネルを折り曲げ加工して納めている。限られた工期で魅せる工場としての機能美を追求した素晴らしい作品である。

（選評：西本雅人）

☆ 入選

【一般建築】

作品名（建築物名称）	石川県直江庁舎	所在地	金沢市
建築主	石川県		
設計者	株式会社 金沢計画研究所		
施工者	【庁舎棟】 豊蔵・橋・岡特定建設工事共同企業体 【車庫倉庫棟】 みづほ・北川・ムラジ特定建設工事共同企業体		



県央土木・県央農林総合事務所と関連団体が入居する合同庁舎であり、災害時には防災拠点としての働きも期待される多目的ビルである。

東西軸をもつ庁舎棟と南北軸をもつ車庫倉庫棟の二つのブロックからなる単純な解決法に至るまで4案を検討したという。車庫倉庫棟は特殊車両基地、書庫、検査室など断面寸法の異なる居室群の配置により高低の変化を生じさせたが、反って機能上大きな開口を許されず間延びしがちな立面に変化を与えている。

庁舎棟北面は海側環状道路に面するため商業地域との連続性を意識し、カーテンウォール仕上げとしている。一方、南面は住宅街に面するためブリーズ・ソレイユを立面のデザイン要素として全面に展開することでボリューム調整に貢献している。

無機質になりがちな北立面にも人の手を介して換気を行う小窓がリズムよく並び、随所にパッシブ型の環境調整機構をそのままファサードのデザインとして昇華させている点が評価された。

(選評：熊澤栄二)

☆ 奨励賞

【住宅建築】

作品名（建築物名称）	二世帯の大屋根の家	所在地	金沢市
設計者	有限会社 金沢設計		
施工者	若狭建設株式会社・白峰物産株式会社・金沢木材協同組合 プレカット金沢		



この住宅の設計者は、長年に渡って古民家再生に取り組みながら、地域に根差した木組みの家づくりを模索してきた。渡りあご掛けによって張り出した出桁と真壁が目を引きこの建物は、そうした設計者の現在の到達点を示している。

例えば、内外部における軸組材の現し表現は木材の耐久性確保を狙った措置でもあり、これら全てに自然乾燥した県産材が使用されている。

自然乾燥に取り組む製材業者は石川県でも例外的であり、こうした材料の継続的利用は彼らの支援を意図してもいる。

この様に古民家再生から学んだ材料・構法選択を行う一方で、この建物ではプレカットメーカーを支援・指導することによって渡りあごの機械加工も実現された。

以上、古民家再生で培われた知見の新築住宅への展開及びプレカットシステムにおける非定型的な仕口の実装に向けた支援等が評価され、奨励作の受賞となった。

（選評：佐藤考一）